

◆学校施設の耐震診断結果について

学校施設の耐震化は、耐震化優先度調査^{※注1}の結果、優先度の高いとされた学校については、平成22年度までに、それ以外の学校についても、平成24年度までに耐震診断^{※注2}を完了しました。

耐震診断を行った結果、補強工事が必要な施設(Is値^{※注3}0.7未満の校舎や体育館など)については、耐震化を完了しました。(平成28年6月末現在)

耐震診断の結果は、別紙のとおりです。

□用語解説及び凡例

注1；耐震化優先度調査

耐震化優先度調査は、文部科学省が定める耐震診断よりも簡易な調査方法で、コンクリート強度や施設の構造、老朽化の度合いなどを指標として、耐震化を行う優先度を5段階で区分したものです。

5段階の区分は、ランク1(優先度高い)～ランク5(優先度低い)となっています。

本市では、ランク1、2に該当する小中学校等から優先的に耐震化を実施しました。

注2；耐震診断

既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準等に基づいて、コンクリート強度調査(圧縮試験、中性化試験)、構造調査(鉄筋の腐食の度合い、鉄筋の太さ、鉄筋の間隔、コンクリートかぶり厚の調査)及び建物の目視による調査を行い、その結果を耐震診断プログラムで解析し、耐震性能を数値化することです。

注3；Is値について

Is値(構造耐震指標)とは、耐震診断の結果を数値化したもので、建物の耐震性能を表す指標です。地震力に対する建物の強度、靱性(変形能力、粘り強さ)が大きいほど、この指標も大きくなります。

Is値による安全性の基準は一般に以下のように言われています。

Is < 0.3 大規模な地震に対して倒壊、又は崩壊する危険性が高い

0.3 ≤ Is < 0.6 大規模な地震に対して倒壊、又は崩壊する危険性がある

0.6 ≤ Is 大規模な地震に対して倒壊、又は崩壊する危険性が低い

※大規模な地震とは、震度6強以上の地震を想定しています。

※本市では、明治以降震度5強以上の地震は確認されておりません。

※一般的な建物の安全性の基準は「Is ≥ 0.6」ですが、文部科学省では児童生徒の安全性を特に考慮し「Is ≥ 0.7」にすることを求めています。

○ 耐震診断の結果の欄については、下記のA, B, Cで表示しています。

A又はBと判定された棟については、耐震補強計画・実施設計を行なった後補強工事に着手します。

高 ←————— 危険性 —————→ 低

A(Is < 0.3)

B(0.3 ≤ Is < 0.7)

C(0.7 ≤ Is)

※「Is ≥ 0.7」であっても、保有水平耐力等の不足により、補強が必要となる場合があります。

補強の実施の欄については、下記の内容で表示しています。

工事完了 ; 耐震補強工事が完了した状態を表しています

工事中 ; 耐震補強工事を行っている状態を表しています

工事予定 ; 平成27年度までに順次工事に取り掛かる予定を表しています

工事不要 ; 耐震補強工事の必要がなかったことを表しています

○ 耐震性の欄の“○”印は、耐震診断・耐震補強工事によりその棟の安全性が確認されたことを表しています。

○ 現在の耐震基準で建築された建物、又は平屋建200㎡以下の建物は、制度上、耐震診断の対象外です。